資料２－２

関連計画と知床エコツーリズム戦略の関係性の整理

知床エコツーリズム戦略の改定にあたり、既存の関連計画に盛り込まれている内容が反映されているかを整理する必要があるため、関連する 5 計画を対象に以下の作業を実施した。

■対象とした計画等
・「知床エコツーリズム戦略」（2013）
・「知床半島先端部地区利用適正化基本計画」（2004）
・「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」（2005）
・「知床エコツーリズム推進計画」（2005）
・「知床エコツーリズム推進実施計画」（2007）

■作業プロセス
・各計画からそれぞれ目的・方針・配慮事項に相当する箇所を抽出。
・各見出し（場合によっては本文）を参考に、類似の項目をグループ化。
・グループ化にあたっては既存の「戦略」を活かしつつも、他の計画の内容をふまえて新たなトピックを追加し、さらに項目名の変更等を検討した。
・上記作業の上、「戦略」の構成が適正になるよう整理を行った。

■用語
野倉（2018）を参考として以下のような各用語の定義のもと、作業を進めた。
・目的…「到達することを目指す最終的なあり方（観光の意義、役割等も含む）」(67)
・目標…「『目的』を実現するために設定した具体的な達成すべきもの（定めた年次までに達成する量や質等）」(67)
・基本方針（≒基本戦略）…「目標の実現のために“どのように進んでいくか”を文章や概念図などで示したもの」(67)
・方策（≒戦術）…「基本方針（基本戦略）に基づいた具体的な手段（戦術）」(68)であり、「実施段階では、一つの個別方策が複数の事業（実施者・財源等が確定したもの）に区分されることもある」(69)

■整理結果＊新たに加えた項目名については赤字で、統合の結果変更した項目名については青字で示す

現在の「戦略」構成

基本原則／将来目標	
1	遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
2	世界の観光客に対する知床らしい良質な自然体験の提供
3	持続可能な地域社会と経済の構築

具体的方策	
1	利用コントロール
2	守るべきルールの設定と指導
3	情報の発信
4	ガイドの育成とガイド利用の推奨
5	文化的資産等の活用
6	利益の還元
7	施設整備
8	モニタリング

エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点	
1	地域主体・自律的・持続的であること
2	共有・協働・連携・ネットワーク
3	自然環境を保全すること
4	自然生態系に関する理解を促進すること
5	地域の文化・歴史的背景を踏まえること
6	自己責任の原則と管理責任の分担
7	知床のブランド価値を高めるという視点を持つこと
8	順応的管理型であること

他の計画も含めた必要な要素の整理結果

目的	
1	自然環境の保全とその価値の向上
2	世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
3	持続可能な社会と経済の構築
4	地域の誇りの醸成　C・D
基本方針	
1	利用コントロール
2	ルール等の作成と運用
3	指導・普及啓発・情報発信
4	ガイドの育成とガイド利用の推奨
5	新たな観光プログラムの開発と地域資源の活用
6	利益の還元
7	施設整備
8	モニタリングと順応的管理
9	自然保護活動の実施　D
10	滞在型観光の推進　C・D
11	外国人観光客の誘致　C
12	多様な主体の協働・連携　A・B・C
配慮事項	
1	地域主体・自律的・持続的であること
2	地域の文化・歴史的背景をふまえること
3	自己責任の原則と管理責任の分担
4	知床のブランド価値を高めるという視点を持つこと
5	景観への配慮　C

＊赤字…他の計画をふまえて追加した項目
＊青字…他の計画をふまえて修正した項目名

A 「知床半島先端部地区利用適正化基本計画」（2004）
B 「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」（2005）
C 「知床エコツーリズム推進計画」（2005）
D 「知床エコツーリズム推進実施計画」（2007）

この整理結果はあくまで既存計画の項目を抽出し、分類した結果である。そのため既存のエコツーリズム計画と他の既存計画には含まれない項目（リスクマネジメントなど）はここには含まれないため、構成案を整理する際にはこれらを含めた案を作成する必要がある。

■参考文献

・野倉淳, 2018, 「観光計画の概念と構造」梅川智也編『観光計画論 1――理論と実践』原書房, 39-100.